

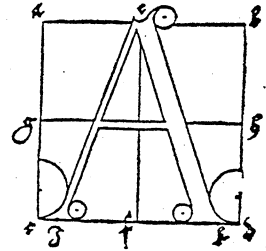
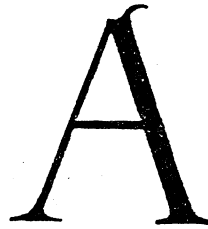
▶ カルトンの制作をとうして ◀◀ 作品は君達の成長の記録です。

2年程まえだったが、私の母が、私が小学生の時に描いた燈台の絵と、野馬追の絵巻とを懐かしげに見せてくれた。それは苦笑させられる高校時代の通知票と一緒にあったが、母がそれまで作品を残して置いてくれたことに対する驚きと、まったく忘れていたことを鮮やかに思い出させてくれることの驚きとであった。授業で制作した作品、いたずらに描いたもの等、よほど気に入ったものでもない限りは自分の作品をそれ程大切に扱わないのが正直なところだが、残して置くと意外なことが理解できる。作品は君達の成長の記録であり、精神史であるのだから

作品を残してほしいと思う。出来上がったカルトンをおおいに活用してほしい。

レタリングあれこれ

アルブレヒト・デュラーの《文字の構成》



レタリングは、字体を考えて字を書くこと、或いはそうして書かれた字を云う。上の図はドイツの画家アルブレヒト・デュラー(1471~1528)が試みている字体である。文字一つにも様々なプロポーションがあることに気がつくだろう。もっとよく見ると、僅かな非対称性が魅力になっている。

うつろなる五月

君を見ずして 何の五月

きらめける空いたづらに

いぶせき怒をひうくとも

ひるがへるかの水色の裳見えす。

君なくして 何の薔薇そうび

みどりの木かげいたづらに

求めたづねて行き行くとも

涼かぜのかの笑ひをさかす。

うつろなる心に ひねもす

おん身たちの影を描き、思へ

わが香りなき安煙草の

むなしく空に消ゆるまを。

(薔薇…バラの花)

佐藤 春夫